

無駄のない学園

山田幸造

先輩のお世話で、広島文教女子大学に就職したのは、昭和五十七年五月でした。初めての私立女子大学勤務であり、多少不安もありました。

初出勤当日、学長室へお伺いして先生のお話を承りましたが、先生は教員になりたい一心で独学で教員検定試験を受けられ合格、暫く公立校に就職されましたが、更に難関の中等・高等教員の上級資格を得られたとか、女子教育に対する熱意には驚きました。

或る日、先生から教室等を見て廻るから同行するよう申されました。最初給食室に入られ、室内のあちらこちらを見ておられました。暫くして給食にたずさわる職員を食堂に集められました。何をお話しになるかと思ってい

三、学園運営の寛と厳

ましたら、配膳が早過ぎるのではないか、寮生の楽しみの一つは食事にある。手がかかるからと言って早めに配膳するのを止め、出来るだけ暖かい食事を出すようにと注意されました。学生には仲々厳しい先生でしたが、思いやりの深さに心をうたれました。

また、教室等を見て廻るから同行するようにと言われ、実習を伴う教室を廻っていた時、助手を呼ばれ、教室が汚ないではないか、学生が気持よく実習できるよう清潔にしておくよう、厳しく注意されました。

時には附属高校も巡視、授業中の教室を廻られて、気のついた点を校長・教頭に告げられ、改善できるならば至急改善するよう指示されました。

先生は、注意されるだけでなく、事務職員の申し出もお聞きになりました。入学式・卒業式で体育館を講堂として使用する時、父兄の座席の整備などについて、事務局としての考えを申し上げると早速お聞きとどけ下さいました。

先生は、私たちが出勤する時には、既に学長室においででした。

学長室では、ときに先生からお話しになることがありましたが、それは生徒のこと、建物のこと、運動場のことでありました。

事務的な処理については、書類をもって伺いましたが、内容についてくわしく説明を求められました。特に回答文書については、その取扱いについて大学側の立場が充分説明されているか、どうかといったような点まで尋ねられました。

郷里常石の行事に出席されるため、大学を出られた先生は、呉から阿賀へ通ずる道にさしかかった時、懐かしそ

うに周囲の景色を眺めておられました。その時、先生が最初に勤めておられた小学校は阿賀小学校？でなかったかと思いました。先生には直接お尋ねしていなかったので解りませんが。(注)

事務職員にとつてこわい先生でしたが、今思えば、他大学に較べ恥かしくない大学であるようにとの考えがおありだったと思えました。

苦労して開学された大学・短期大学・高等学校・幼稚園に対する先生の思いは、我が子を愛する親心に似ていたといえましょう。

(注) ミキ先生は、大正十一年一月福山市増川実科高等女学校、同年十一月安佐郡久地村立実業補習学校を経て、昭和二年六月賀茂郡玖賀町立実業補習学校に赴任され、昭和十七年三月まで勤務された。